

消防本部庁舎の移転

回 覧

を検討しています

■趣旨

現在の消防本部庁舎は、東日本大震災の際に津波浸水被害に遭い、現在も津波浸水想定区域内に立地しています。今後、大洗町に東日本大震災時を超える津波が押し寄せた場合に、役場庁舎と共に消防本部庁舎も被災すると、町の安心安全を守ることが困難となるおそれがあります。(茨城県内で、東日本大震災時、津波浸水被害を受けた消防庁舎は、大洗町だけです。また、被害を受けなかった消防庁舎であっても、津波浸水想定区域内に立地しているという理由で、高台移転をしています)

消防本部庁舎が被災し、消防本部機能が失われると、緊急車両への指示ができなくなり、救急活動や消火活動に混乱をきたします。また、応急処置に必要な資材等が流されると、病院へ搬送するまでに必要な応急処置が十分にできなくなったり、消火に必要な消防ホース等の機材が浸水被害を受けると、火災が連続して発生した場合に、十分な消火活動ができなくなる等が懸念されます。

このため、災害時においても消防本部機能を維持できるよう、地震や津波等によるあらゆる災害が想定される区域外（上図の4候補地）へ移転する計画を検討しており、今年度は、外部有識者による検討委員会を立ち上げ、消防本部庁舎改築・移転の必要性や、移転候補地選定について、検討を行ってきました。その結果、町民の安心安全を守るためには、消防庁舎の移転は必要であり、候補地については、消防本部庁舎の建設用地として、大貫台が最も適しているとの評価がでております。

町では、令和4年12月に、住民説明会を2回行いましたが、ご希望があれば、町内会単位での小規模な説明会を行います。

■消防本部庁舎移転候補地



住民説明会のご要望 問合せ先

大洗町消防本部

029-266-1119 消防総務係（内線23）

裏面 Q&A に続きます

消防本部庁舎移転に関する Q&A

Q. なぜいま移転を検討するの？

A. 東日本大震災後、適切な移転候補地がないなど様々な理由で、現在地に残っていた消防本部庁舎ですが、町を守る消防本部庁舎が、津波浸水想定区域内に建ったままでよいのかという議論は、これまで、繰り返し行っておりました。その中で、消防本部庁舎が建設可能な候補地が4箇所あがったことなどから、本格的な移転の検討をすることとしました。

Q. 消防本部が移転すると、今まで救急車や消防車がすぐに来てくれたけど、今よりも来るのが遅くなる？

A. 現状では、消防本部庁舎が磯浜地区にあることで、特に磯浜地区には、緊急車両が早く到着できていましたが、一方で、夏海・松川地区への到着は、時間がかかる傾向がありました。現在、移転候補地として検討している4箇所のうち、3箇所（JAEA旧夏海寮跡地、大貫台、旧大貫小跡地）は、町の地理的中心地に近く、主要幹線道路を使えば、町内各地区に大きな偏りなく、緊急車両が到着できるものと考えております。地区によっては、今までより緊急車両の到着が数分遅れるところもあるかと思いますが、救急車の全国平均到着時間（8分54秒）を超えて、遅れるということはありません。

Q. 役場庁舎と離れると不便になるのでは？

A. 役場庁舎と消防本部庁舎が近くにあること、また、人口密集地に消防本部があることの利便性はあるかと思いますが、一方で、役場庁舎と消防本部庁舎が近くにあるということは、災害時、同時に被災する危険性もあり、その場合には、町の災害対応に大きな影響がでると考えております。このことから、消防本部庁舎は、高台へ移転し、役場庁舎が被災した場合でも、消防本部に町災害対策本部を移して、町の災害対応にあたることを検討しております。

Q. 残された消防本部庁舎の活用と周辺の住民の防災体制は？

A. 現在の消防本部庁舎は、町の施設として残す方針ですが、その活用方法については、検討中です。また、どのように活用するかに関わらず、津波の際の一時避難施設としての役割は、残す方向で検討していきます。ただし、あくまで一時的に避難する施設と考えていただき、有事の際にはできるだけ速やかに高台へ避難できるよう、町の防災訓練等を通じて日頃から防災意識を持っていただくようお願いいたします。

このほか、消防本部庁舎移転改築に関する
詳細（大洗町消防本部庁舎改築工事基本構想）は、
右のQRコードからご覧いただけます。

